

# 県指定史跡 鵜殿石仏群



|       |                                        |
|-------|----------------------------------------|
| 種別    | 佐賀県指定史跡                                |
| 所在地   | 唐津市相知町相知 <a href="#">Google Mapで表示</a> |
| 指定年月日 | 昭和31年（1956）3月1日                        |

鵜殿石仏群は、唐津市相知町の松浦川中流域右岸の丘陵に刻まれた摩崖仏（まがいぶつ）群です。昭和31年（1956）に佐賀県の史跡に指定されました。

摩崖仏とは、石仏の一種で自然の岩壁や巨石などに彫刻された、仏や明王等の総称をいいます。現存する石仏は、丘陵の南西側に集中して残っていて、主窟と南西壁面、東壁面の大きく3つの区画で構成されています。

主窟は、中世に平等寺が建立されていたと伝えられており、南西壁面では、鵜殿石仏群の中心的な位置づけである二天窟（にてんくつ）が存在し、東壁面では室町時代を中心に様々な仏が掘り込まれています。

鵜殿石仏群は、伝承によると、大同元年（806）に空海が唐で仏教修業をし、遣唐使と共に帰国した時に、この地に立ち寄り、釈迦如来・阿弥陀如来・観世音菩薩の三体の釈迦三尊を岩肌に刻んだのが始まりである、と文禄3年（1594）に記されています。

しかし、現存している約60体の石仏の中には、空海がいた平安時代頃の石仏は一体もなく、最古のものでも14世紀前半の南北朝時代の石仏で、南北朝時代から江戸時代にかけてつくられた石仏が現在残っています。また、室町時代には平等寺、17世紀には明王院という真言宗系の寺院も建立され、中世から近世には山岳仏教の修行場として開かれていたと考えられています。

## 関連リンク

・[鵜殿石仏群（唐津観光協会外部サイトリンク）](#)

問い合わせ

生涯学習文化財課

〒847-0013 佐賀県唐津市南城内1番1号

大手口センタービル6階

電話番号：0955-72-9171